



TITLE:

多数のカツオノエボシが兵庫県淡路島へ漂着

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 多数のカツオノエボシが兵庫県淡路島へ漂着. 漂着物学会誌 2016, 14: 47-47

ISSUE DATE:

2016-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217876>

RIGHT:

© 2016 漂着物学会

久保田 信¹：多数のカツオノエボシが兵庫県淡路島へ漂着

Shin KUBOTA¹：Many *Physalia physalis* washed ashore at Awaji-shima Island, Hyogo Prefecture, Japan

兵庫県神戸市須磨海岸におけるクラゲ類の出現についてはよく調査されており，過去7年間の定点調査により，未同定種を含め2門（刺胞動物門と有櫛動物門）30属33種が確認されている（山田ほか 2010）．今回，上記の定点に近い兵庫県の淡路島で，外洋性のカツオノエボシ *Physalia physalis* が，数十個体漂着していたので，稀少例として報告する．

淡路島の北東岸にある砂浜（大磯：34.33.18.831N, 135.00.20.219E）で，2014年8月6日に，多数のカツオノエボシが海藻などとともに漂着していた（図1）．これは，前回の報告での単なる付加記録として取り扱った須磨海浜水族園職員による2003年10月における目視での確認（山田ほか 2010）以来の正式記録となる．

前報の著者の一人である山田豊隆氏によるその後の兵庫県の他地点での不定期調査では，カツオノエボシの出現は，それ以降，2016年2月末に至るまで目視されていない．また，牛原康博氏，阪口正樹氏，村井貴史氏らは兵庫県沿岸海域で今まで見たことはないとのことである．また，鍋島靖信氏によると，「国立研究開発法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が所管する瀬戸内海ブロック特記情報（2014年～2015年）によると，瀬戸内海周辺府県からのカツオノエボシの報告・記録はされていない」とのことである．しかし，今回のように，外洋性の本種が黒潮域から紀伊水道を越えて，大阪湾まで吹走されてくることは，今後も状況によっては，稀ではあろうが起こり得るだろう．今回の場合，上記漂着日の数日前には2つの台風が南方海上にあったので，これらの影響が大きいと思われる．なお，黒潮の影響を比較的良好に受ける和歌山県白浜町沿岸では，近年，本種が4－11月にかけての期間中，毎月ではなく不連続ではあるが，兵庫県沿岸海域よりもより頻繁に漂着することが記録されている（久保田 2004）．



図1 兵庫県淡路島の大磯へ2014年8月6日に漂着したカツオノエボシ *Physalia physalis*．

謝辞：本報告に当たり貴重な情報を下さった牛原康博氏（神戸大学内海域環境教育研究センター），山田豊隆氏（Jelly Club），村井貴史氏（海遊館），阪口正樹氏（兵庫生物学会），鍋島靖信氏（大阪府立環境農林水産総合研究所）に深謝致します．

引用文献

- 久保田 信．2004．和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の異例な季節変化 ―前報との比較を含めた続報．漂着物学会誌，2：25-28．
山田豊隆・武田曜男・久保田 信．2010．兵庫県神戸市須磨海岸におけるクラゲ類の出現推移（2003-2009年）．Kuroshio Biosphere，6：27-30，pls.1-2．

（Received Mar. 12, 2016; accepted May 10, 2016）

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan